



◆令和2年を迎えて

昨年はラグビーワールドカップでの日本代表の躍進や、女子プロゴルファー渋野日向子選手の全英オープン優勝など、新時代にふさわしい明るい話題もありましたが、一方で台風19号による災害で上田市も大きな被害を受け、世界的な気候変動の脅威を実感せざるを得ない年となりました。

私自身は、市議会議員となり2年目を終えるにあたって、人口減少・社会保障費の増加・公共施設の維持更新経費の増大等、地方自治体に共通する課題に加え、資源循環型施設建設、市立産婦人科病院での分娩件数の低下（出生率の低迷）など上田市独自の課題についても、非常に強い危機感を持っています。特に災害対応で多額の補正予算が組まれ、財政調整基金（貯金）も大きく取り崩す市の財政状況は、今まで以上に厳しいやり繰りが必要になります。

以上のように、令和2年は厳しい船出となりますが、将来は「必ず良くなる」という希望だけは持ちながら、市政についてはより本質的な課題について理解を深め、改善に向けた提案をしていきたいと思います。

本年もよろしくお願い致します。

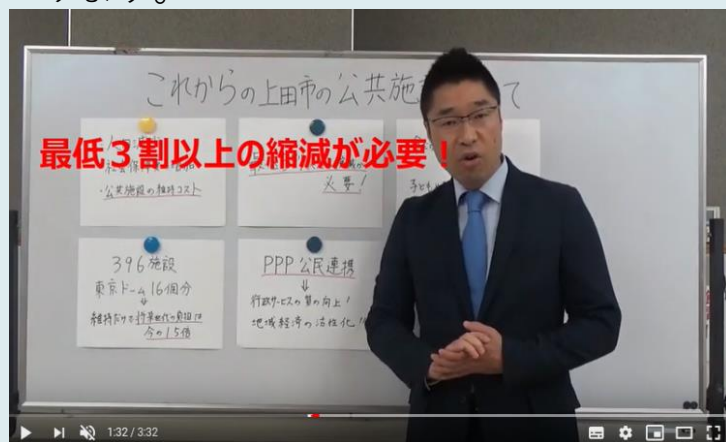


※別所線の復旧については、市有化予定の鉄橋の維持管理費の確保や運行形態の見直しも含め検討を進めるべきと考えています。

◆災害について考えナイト！を開催

昨年の11月27日に災害アーカイブの活動をしている視覚障害をお持ちの方をゲストに迎え、みんなで災害について考えナイト！を開催しました。

参加者の皆さまとの対話を通じて見えてきた課題については、12月の一般質問などを通じて、早速、担当課に確認させて頂きました。これからも、現場の生の声に耳を傾け、市民の皆さまとの対話を行ってまいります。



◆ユーチューバーデビューしました！

市政のことをもっとわかりやすく、より多くの皆さまに知って頂くために、市政の重要課題についての現状と私の考えを3分動画にまとめて配信することにしました。

初回のテーマは『公共施設の現状と今後のあり方について』です。上田市に公共施設が396施設（面積にして東京ドーム16個分！）もあることや、その維持管理費が皆さまのお子さん、お孫さんなど将来世代の負担になることなどを、わかり易くお伝えしています。ぜひ「**上田大好き！齊藤達也****YouTube**」を検索してみてください。

今後は月に1回を目標に、定期的にアップしていきたいと思います。ご意見、ご感想等ございましたら、どしどしお寄せください。

1 2 月 定 例 会 一 般 質 問

◆台風19号を教訓にした今後の災害対応
問 千曲川ほか市内河川の堤防のうち、
浸食や決壊の可能性が高い場所は把握
しているか。

答（藤澤都市建設部長）堤防の状態や過去の実績などから重要水防区域として把握しており、国管理の千曲川で66カ所、県管理河川で113カ所、市管理河川で24カ所の合計203カ所あり、毎年出水期前の5月に、護岸や河床などの状況を確認している。また、地元の皆様からのご報告も非常に重要な情報となるので、河川や橋梁等の異常があれば、市への通報をお願いしたい。

問 浸水想定区域にある指定緊急避難場所の見直しを行う考えはあるか。

答（中村総務部長）指定緊急避難場所のうち、浸水想定区域に含まれている施設は21カ所ある。今回の台風災害を受けて、指定の見直しについても検討していく。

問 停電時はコミュニティFMなど地域に根差したラジオ放送が有効と言われるが、見解はどうか。

答（柳原政策企画部長）ラジオによる情報発信は災害時や停電時に非常に有効であることから、コミュニティFMを活用した取り組みを多くの市民の皆様を知っていただくよう啓発に努めていく。

◆ごみの減量化を目的にしたトンネルコンポスト方式の導入

※トンネルコンポスト方式；微生物の力でごみを分解し、減量化する方式。処理コストも安く、環境にも優しい。分解後は固形燃料としての利用価値が高い。

問 トンネルコンポスト方式はごみの減量化に非常に有効な方式だが、導入に向けての検討状況はどうか。

答（山口生活環境部長）生ごみリサイクル研究委員会や廃棄物処理審議会において上田市の地域特性を踏まえた上で方向性が出される。

◆不登校・ひきこもり支援

問 不登校からひきこもりに至るケースについては伴走型支援が必要だが、ひきこもりに至らないようにするためにできる具体的な支援は何か。

答（峯村教育長）不登校の対応とは、児童生徒が不登校になってからではなく、魅力ある学校づくりを目指すという未然防止の取り組みから始まる。児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、安全、安心な環境をつくること、学校が全ての児童生徒にとってよい居場所になっているか、保護者との信頼関係を構築できているか等を重視して学校づくりに邁進していきたい。

避難所運営ゲームを体験してみナイト！のご案内

災害時、殺到する避難者にどう対処し、適切な配慮ができるか。実際に起こり得る様々な出来事を想定し、避難所運営を疑似体験する「HUG（ハグ）」というカードゲームをご存知ですか？台風19号の時も、一部の避難所では長野大学の学生たちが避難所の運営ボランティアとして活躍してくれましたが、内閣府の避難所運営ガイドラインにも、災害時の状況によっては避難者（市民）による避難所運営を求めています。

今回は長野県危機管理防災課の職員さんをお招きして、避難所運営ゲームHUGを体験します。準備の都合上、参加者の人数を正確に把握したいので、参加ご希望の方は事前にお申込ください。

日 時：2月27日木曜日 19時～21時

場 所：まちなかキャンパスうえだ

主 催：ウエダマテマチカ

※申込・問合せ090-2322-1722（竹重）